



金融取引税(IOF税)の税率再引き上げにつきまして

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

債券投資に係るIOF税を4%から6%に引き上げ:

ブラジル財務省は現地2010年10月19日、海外投資家によるブラジル債券購入に対する金融取引税 (IOF税) を4%から6%に引き上げ、即日実施することを確認しました。株式投資への税率は現行の2%に据え置かれます。

引き上げの背景について:

ブラジルでは2009年10月にIOF税が再導入され、急激なレアル高と海外からの資本流入を抑制する目的で、2010年10月5日に債券投資に係るIOF税の税率引き上げが行われました(発表は4日)。しかしながら、ブラジルの金利(政策金利10.75%)が他国と比較して高水準であることや、好調なブラジル経済に対する成長期待による海外からの資金流入が継続しており、レアル高抑制の効果は限定的なものに留まっていると考えられます。

また、ブラジルでは10月31日に大統領選挙第2回投票が予定されており、レアル高はブラジルの輸出産業に悪影響を及ぼしていることから、レアル高の抑制は大統領選の争点のひとつとなっています。

こうしたことからブラジル財務省は、急激なレアル高抑制のため、税率を再度引き上げたと考えられますが、今回の引き上げは、レアル高抑制に対する政府の強い姿勢を表していると考えられ、上述の債券投資に係るIOF税の引き上げに加え、デリバティブ取引における追加証拠金に係る海外投資家の為替取引についても、税率を現行の0.38%から6%に引き上げました。

税率再引き上げの影響について:

IOF税の税率再引き上げは、マンテガ財務相がブラジル時間の10月18日夕方の会見で発表したもので、これを受けて19日の市場は、ボベスパ指数終値が前日比2.6%安の69,863.58、為替は対米ドルが1ドル=1.68レアル、対円が1レアル=48.49円台となり、レアルは若干下落しました。

これまでの例では、ブラジルでは税制改正の後、株式市場及び為替市場において、短期的には税制改正の影響が見られており、今回の税率再引き上げについても、足元ではその影響について、慎重に見極めてまいります。

ただし弊社は、今までのIOF税率引き上げの影響は、長期的には相対的に軽微なものに留まっていたと考えており、ブラジルの現在の金利水準や、中長期的な金利低下による債券価格の上昇期待から、ブラジル債券市場は、引き続き魅力的な投資対象であると考えております。

ブラジルレアルの推移

